

# 2016 年度 センター試験 倫理 (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：37 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化    ○ やや難化	● 変化なし    ○ やや易化    ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし    ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p><b>総評</b>                  大問数、解答数、出題分野の構成は昨年までと同じ。出題形式に変化はなかったが、全体的に細かい知識が求められる問題が増えており、難しく感じた受験生も多かったであろう。文章内容を読み取る力や知識をもとにして誤った選択肢を消去する力があれば、十分正答を導き出すことは可能であるが、受験生によっては解答に時間がかかる問題もあった。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	現代社会の諸問題・青年期	28 点	問7のハンズ・ヨナス、問9のコミュニタリアニズム等、全体的に極めて細かい知識が求められており、消去法を駆使しても正答を導くのに時間がかかった受験生も多かったであろう。問5の図表問題は昨年とほぼ同レベルの問題であったが、問4の読解問題は昨年以上に時間を要する問題であった。
第 2 問	源流思想	24 点	問3、問5では、ソクラテスの国法論とストア主義の自然法思想をテーマとした法律のあり方に関する出題となっており、倫理受験生には馴染みのない観点からの出題であった。問2のシャリーアに関する問題では、飲食規定に関する細かい内容が問われていた。
第 3 問	日本の思想	24 点	問1のスサノヲの問題は「祓い」というキーワードで解答は可能であるが、選択肢の文章が細かく、惑わされやすいものであった。問2では和辻哲郎による神々の定義、問3では奈良仏教に関する知識が問われているが、受験生にとっては正答するのに厳しいものであった。
第 4 問	西洋近現代思想	24 点	問5バークリー、問7ベルクソンの時間論、問8即自存在、対自存在など、用語やテーマは難しいものとなっているが、読解力を活かし消去法を用いれば十分正答は導き出せるものであった。問4では、カントの認識論について問われており、道徳論以外の細部に渡る学習が求められた。